



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1995-96

Act with Integrity
Serve with Love
Work for Peace

真心の行動・慈愛の奉仕・平和に挺身
1995～96年度・国際ロータリーのテーマ／ハーバートG.ブラウンRI会長

●本日の例会

11月24日／第440回例会

■卓話「留学生活で学んだこと」

元派遣青少年交換学生 清家純さん

留学国：米国イリノイ州 留学年度：1994～95年 ホストクラブ：NAPERVILLE RC(D6450) スポンサークラブ：当クラブ

●先週報告

11月17日／第439回例会

■会長報告

①2750地区丸山ガバナーより97～98年度ガバナー候補者を指名致しましたとの報告をいただきました。(下記参照)

②米山奨学生・金榮燦さんは見事に、95年10月12日付けで東京大学大学院工業系研究科機械情報工学専攻の学位論文に合格し、博士(工学)学位を取得されました。金さんご自身のお喜びは言うまでもありませんが、世話クラブとして大変名誉なことです。

■国際奉仕委員会報告(鈴木委員長) 97～98学年度ロータリー財団奨学生募集

2750地区ロータリー財団国際親善奨学生の募集が始まりました。我が国の奨学生が海外において1学年又はマルチヤー(2学年又は3学年)大学院や職業研修で勉強並びに社会生活することによって国際理解と親善友好に寄与するためのものです。募集人員は約15名で、当地区に本籍又は現住所がある等の資格が設けられています。ロータリーの関係者は資格がありませんので念のため。1学年度奨学金は21,500\$まで、マルチヤーは1年につき10,000\$です。申込の締切は1996年1月22日で、3月初旬に一次選考が始まり、地区最終面接は5月10日です。詳しくは当委員会にお問合せ下さい。

■出席委員会報告(佐々木副委員長)

7月8月9月と尻上りに出席率が向上してきましたが、10月に入って少し息切れをしたのか、前月を2.92%下回って88.77%にダウンしてしまいました。今後共出席率向上に御協力をお願い致します。本年度から、メイクアップ期間が例会日前後2週間に延長されましたので、今後は通知ハガキに補充する例会の日付を入れて特定して下さる様お願い致します。

■慶事披露 ●お誕生日祝／芦谷庸二郎君(11月19日) 吉田用親君(11月21日)

■出席報告 ●会員74名・出席41名・欠席33名(出席規定免除者4名)

ビジター(11名敬称略)／箱崎 賞(大阪北)、鍛冶正行(梅田東)、成瀬 勝(東京原宿)、縄 英明(東京本郷)、野村 弘(東京銀座新)、花村 理(東京日本橋)、細川俊弥(東京新都心)、西山 巖、鈴木治己、杉山民治、中野博義(以上東京南)

各ロータリークラブ会長殿

1995年11月15日

国際ロータリー第2750地区
ガバナー 丸山 宏

このたび当地区ガバナー指名委員会は、RI細則第12条第7節(b)および(c)項の規定に従い、全員一致で東京京浜ロータリークラブの岩井 敏君を1997～98年度地区ガバナーの候補者に指名致しました。

もし、地区内クラブで他に候補者があり推薦されたい時は、来る11月30日必着にてガバナー事務所までお申し出願います。

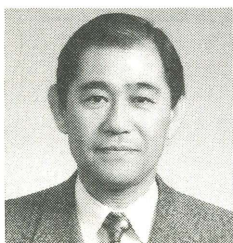
期日までに別候補者の推薦がない場合には、指名委員会の指名通りに確定致します。

以上

岩井 敏君 略歴 生年月日 昭和2年9月16日
住 所 東京都渋谷区広尾4丁目1番12-901号
学 歴 昭和27年3月 明治大学商学部(旧制)卒業
職 歴 昭和33年1月 公認会計士 岩井敏事務所 開設
昭和48年9月 扶桑監査法人加入、代表社員に就任(後 新光監査法人と改称)
昭和63年7月 新光監査法人を退任
同 同 太田昭監査法人加入、代表社員に就任、現在に至る
役 歴 昭和42年3月 日本公認会計士協会理事、常務理事を歴任
昭和52年6月 同協会副会長
平成4年9月 社会福祉法人日本国際社会事業団副理事長に就任し現在に至る
章 歴 昭和63年11月 藍綬褒章受賞
ロータリー歴 1969年4月4日 東京大井ロータリークラブ入会(チャーターメンバー)
1977～78 クラブ会長
1989～88 京浜分区分代理
1989年6月 東京京浜RC創立に伴い転籍
1990～91 地区会計監査
1995～96 地区会計監査

●卓話 イニシエーションスピーチ「コンピュータと教育」 当クラブ会員・学校法人東放学園 理事 村山公士

11月17日例会



コンピュータが開発されてから、50年になります。この間に、トランジスタの開発や、IC技術の進歩により、コンピュータの性能は飛躍的に高くなり、今では、机の上に乗るパーソナルコンピュータでも10年前の大型機に匹敵する能力をもつほどになり、価格も大幅に安くなりました。

その結果、コンピュータはオフィスで誰の机の上にも置かれるごく普通の道具となり、それを一人一人が使いこなして仕事の生産性を向上させることが求められるようになりました。以前はコンピュータを使うために大変な教育を受けなければならない時期もありましたが、幸い今では、様々な作業を容易に行なうことを可能にするソフトも市場に数多く登場するようになったので、ユーザーは目的に合わせてそれらを選択し、うまく使いこなすことが重要視されるようになっていきます。

中学校を始め、それぞれの学校では徐々にではあるが、情報リテラシー教育も進められており、新しい時代に即した、新しいコンピュータ教育が実践されるようになってきており、成果を上げ始めています。

●第1分科会「クラブ奉仕部会」

柴 藤 清三郎

ロータリーの最も大切な行事は毎週の例会です。本日はそれぞれのクラブの例会を盛り上げるためのノウハウや苦心談などを聴かせて頂き参考にする事を目的としてクラブ奉仕部会が行なわれました。IM実行委員長長の立木実山の手分区代理より挨拶があり、ロータリーの例会の型が出来た歴史について詳しい説明があった。引き続き各ロータリークラブの例会の特徴について、東京南RC松木会長、世田谷南RC田中会長、今年1月創立の都南RCの辻岡会長よりそれぞれ内容豊富な発表が行われた。部会のカウンセラー松原バスターより例会の参考資料が集められているロータリー文庫を活用して欲しい、最近ではロータリークラブの例会がマンネリ化して活力を失って来ている傾向があるので、ロータリーにやろうとする意欲が必要である。例会時間の2分の1は卓話であり、その要素は大きい、本日の記念講演の日野原先生の話の聞いて、卓話の楽しさを満喫されたと思う。プログラム委員の充実が肝要であると助言を頂いた。最後に地区クラブ奉仕委員会宮本委員長よりホームクラブ小金井RCの100%出席の説明があり、勉強してきました。

●第2分科会「職業奉仕部会」

吉 田 用 親

出席者の主体を各クラブ職業奉仕委員長とした第2分科会は、矢野洋四朗バスターをカウンセラーに迎え、佐々木地区職業奉仕委員長を中心に会議が進められた。

地区職業奉仕委員からは、「企業倫理」について、同氏が私淑している、安岡正篤の著書や語録を引用し、「企業を形成しているのは人であり、人によって企業の倫理観が定まる。人にとって大切なのは知識や技術でなく、徳である。徳は人を愛する心、忍耐、誠実、努力する力、しつけ等々からなる。徳を高めることが企業倫理を高めることになり、ロータリーの職業奉仕を実践することになるのではないか」との主旨の意見が述べられた。

事例発表では、各クラブにおける職業奉仕活動の実践参考例として、築地RCの「福祉の第一線で活躍する人々を理解する運動」として、消防署の救急隊員、ホーム・ヘルパー、福祉施設で働く人達等に卓話をお願いし、表彰している例、西RCの会員の職業を理解するため「会員のきずな」と題する冊子の発行、成城新RCの例会の委員会報告の場を利用した、会員の職場のモットーと主旨の発表等々、クラブの職業奉仕活動展開にとって参考になる発言があった。

●第3分科会「社会奉仕部会」

入 沢 頼 二

1. 秋山 一バスターの講話「ロータリーにおける社会奉仕の基本理念」23-34と62声明について I serve, We serveを中心に、社会奉仕だけでなく、ロータリーの理念を歴史的経緯とその背景から講話された。
2. 事例発表「東京臨海新交通ターミナル地域の美化活動」千代田区分区13クラブが合同で、新橋と有明を結ぶ新交通システムの新橋駅に花壇を設置。
3. 事例発表「自然の疎外に伴う子供の幼衰現象」校内暴力、落ちこぼれ、登校拒否等の問題、又体格は戦前に比し飛躍的に向上したが、中味がおそまつで、体力がなく、大人がかかるような病気にかかる子供が多い。これは子供達が自然と遊べる環境が少ないためであり、自然と遊べる状況及び環境を作ることが大切。

●第4分科会「国際奉仕部会」

宮 本 正 祥

財団活動と国際交流についてをテーマとして開催されました。冒頭にロータリー財団の現況の説明があり、本年度のRIの一般寄附目標は52万ドルであり、その内の60%が地区財団活動資金となり、主として国際親善奨学金と同額補助金に使用されること。更に残りの40%は国際財団活動資金として、ポリオ・プラスを含む、全世界における補助金として活用される旨の説明がありました。又、この資金を使用し、昨年度より研究グループ交換(GSE)が初めて実施されました。このプログラムは専門職務に携わる従業員のチームが相手国の同様なチームと訪問を交わし、施設や文化を視察する目的のものです。このプログラムは1965年に発足され、現在では年間約2000名のチームメンバーが相互交換で研修を行なっています。

最後に質疑応答がありましたが他クラブの会員より次のような意見がありました。

(1)IMでは毎回財団の話が出るが、米山奨学の議題が出ない。双方共活動の両輪である由、ぜひ米山の話をしていただきたい。

(2)GSEは近くて相互理解が困難なアジア諸国も対象として行なうべきではないか。

まとめは紫野バスターより、これからの国際奉仕活動は21世紀に向かって、はっきりとした目標を持って活動すべきとの講評があり、第4分科会を終了しました。

●第5分科会「新会員のための勉強コーナー」

村 川 優

カウンセラー田辺賢三バスター、リーダー漆崎義雄研修リーダー、副リーダー上原真二郎地区幹事、リポーター佐久間崇源東京目黒RC会長を難聴に迎えて、出席者約200名、主として各クラブの新入会員に加えて各クラブ情報委員長が参加した。

上原副リーダーの司会のもと、まず田辺カウンセラーからロータリーの歴史について説明があった。ポールハリスによるロータリーの発足に始まって、その後の組織的、思想的な変遷発展を詳しく説明され、一同感銘を受けた。特に標準ロータリークラブ定款、並びに推奨ロータリークラブ細則を熟読し、併せて「ロータリーの綱領」を充分理解実践することを奨められた。重要なポイントであると思う。

次いで漆崎リーダーよりロータリー歴史の補足に加えて、新会員に対して最重要ポイントである「例会出席の意味」について説明があった。特に新会員が属するSAAとか親睦委員とかの職務を例会において熱心に果たすことを通じて、違った職種の会員達と会って自己研鑽を続けると共に、自分と違った他職業の人達の経験をきき、これを奉仕の理想に繋げることの重要性を強調された。

講演終了後の出席者からの質問として、(1)ライオンズクラブとの相違点(2)職業奉仕の言葉の意味その内容をもっと詳しく知りたいなどの発言があった。

出席者(順不同・敬称略)

来賓・カウンセラー／田辺

第1分科会／山川、柴藤、関、新保、川鍋、伊部、河原、馬場、荒木、相澤

第2分科会／吉田、西澤、坂本

第3分科会／入沢、渡邊、横山、後藤、吉岡

第4分科会／宮本、梶内、島田、斎藤、保森、四分一

第5分科会／村川、小杉、鍋島、清原

ニコニコBOX

順不同・敬称略

11月17日/14件 41,000円

95~96年度累計 822,000円

多額のご寄付を有難うございました。

山川政樹、村山公士、小澁雅亮、河原勢自、荒木昭文、佐々木忠行、鈴木重徳、関 征春、田中 武、伊部和夫、川鍋二郎、小杉真史、石坂二郎、柳澤昭雄

紙面の都合上コメントは省略させていただきます。

●ホリオ・プラス情報「グラント補助金、エジプトのポリオ根絶に活用」

(Rotary Worldより)

ユニセフでは、1995年ロータリー国際理解賞と共に贈られたUS\$100,000の財団補助金をエジプトでのポリオ根絶事業に活用します。本賞はユニセフの前事務局長、故ジェームス・グラント氏へ贈呈されたものです。エジプトでは、免疫付与と監視をもって、12月までには野性ポリオ・ウイルスの感染を防止する目標を立てています。エジプトでは、1991年には600件のポリオ発生が記録されていましたが、1995年の最初の5カ月間には1件の発生も記録されておりません。ロータリーの補助金を活用して、ポリオ根絶運動にエジプト国内の一般社会を総動員して、殊に危険性の高い地域におけるポリオの掃プロジェクトを実施することになっています。

●次週予告

12月1日/第441回例会

■年次総会

■卓話予定

次年度(96~97年度)役員・理事選挙

イニシエーション・スピーチ

「知的所有権(特に商標・サービスマーク)と弁理士」

当クラブ会員、世良・金井国際特許事務所所長 世 良 和 信 君

東京新南ロータリークラブ

会長：山川政樹 副会長：柴藤清三郎 幹事：関 征春

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

荒木 昭文、清原 元輔、青野 信次、
植田 和男、後藤 信夫、新保 國彦、
相澤 成憲、吉田 用親、高橋 良士、
吉岡 琢磨、大村 富俊(編集担当順)